

① 突っ慳貪（つっけんどん）

相手に対して思いやりの無い態度や言葉遣い（づか）をしたら「ずいぶん、突っ慳貪（つ けんどん）な人だな……」と思われてしまいます。

この「突っ慳貪」という言葉は、「慳貪（けんどん）」という仏教語に「突っ張る」などに使われる「突っ（つ）」という言葉をつけて意味を強調したものです。

「慳貪」とは、もの惜しみ（お）をして執着（しゅつちやく）をするという意味の「慳（けん）」に、迷いのもととなるむさぼりの意味の「貪（とん）」を合わせたもので、むさぼり求め、もの惜しみし、他人になにも与えないこと、心が迷い正しい行いができないことをいう仏教語です。

この行いをさらに強調した言葉が「突っ慳貪」です。

自分の持ち物や、財産、また自分の考えに執着し、もの惜しみすることで、相手に対して思いやりの無い態度や言葉遣いをしていませんか？

お釈迦さまは「自分の身体（からだ）でさえ自分のもので無い、ものに執着をせず正しい行いをしなさい」と示されています。

相手に思いやりの心を持つということは、自分のものを分け与えるだけでなく、お釈迦さまの正しい教を歩むことなのです。

② 冥利（みょうり）

学校の先生が、しばらく会っていない教え子から感謝の言葉を聞くと「教師冥利（みょうり）に尽きる」などと言います。

この「冥利」も仏教語で、もとは「冥加利益（みょうがりやく）」といい、仏さまや菩薩さまのご加護（かご）のもと、知らず識らず（し）に受けるご利益（りやく）のことを言いました。

転じて、自分が人のために知らず識らずに行った善い（よ）行いによる恩恵（おんけい）のことを言うようになりました。

自分自身の利益（りえき）を求めるとはならず相手のためにする行いは、知らず識らずに自分自身にかえてくるものです。

道元（どうげんぜんじ）禅師は「自分一人が救われるのでは無く、多くの人を救おうという心が大切である」と教えています。

私たちも自然に相手のためになる善い行いをしたいものです。きっと仏さまのご利益（りやく）があることでしょう。